

TURN LAND

プログラム 2025

TURN LAND

2025

固執心采捨の家

人生、

編みあり歌あり。

TURN LANDでは、

アーティストと福祉施設が協働し、

日常の中に、人と関わるきっかけをつくる活動を行っています。

参画して4年目となる西荻ふれあいの家で

並走しているのは、編み物と、曲づくり。

編み図のない編み物では、

形が思っていたのと少し違っていくのも、味わいに。

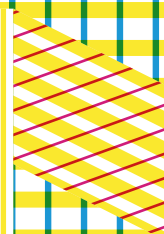
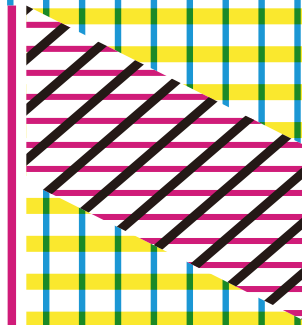
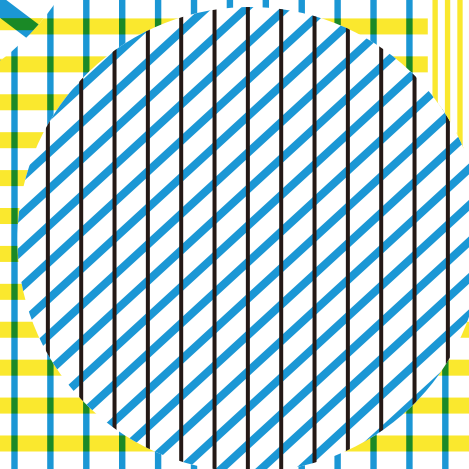
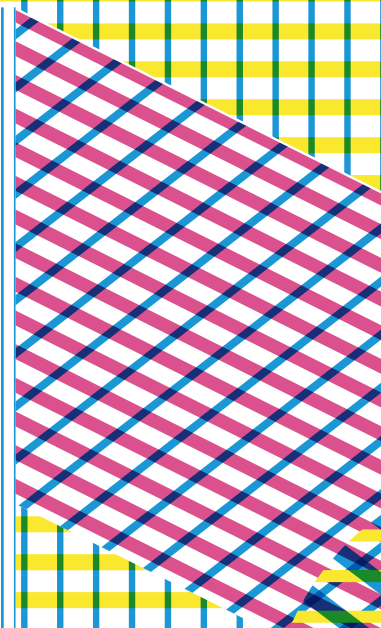
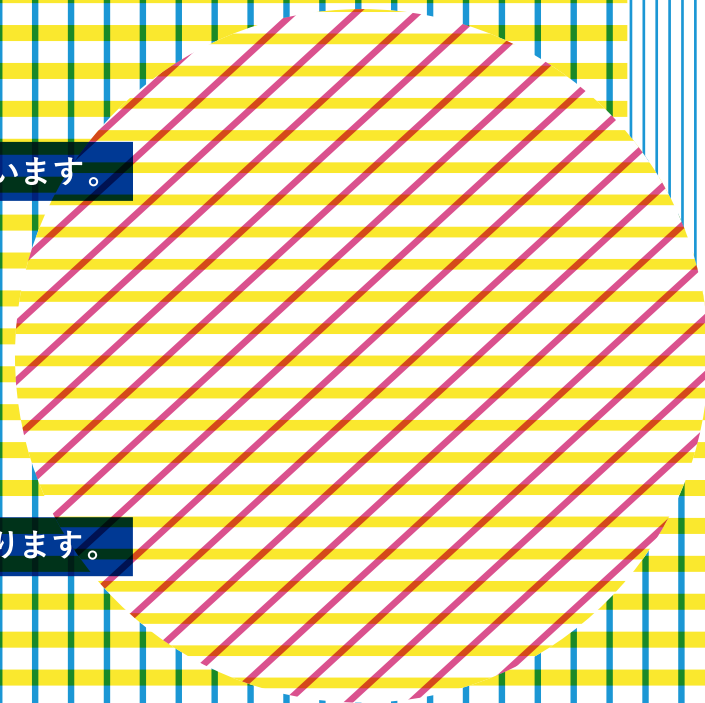
曲づくりでは、言葉をカードにして並べ替えるだけで

歌が出来上がる仕掛け。

順番を変えるたびに、ことばの表情も、曲の感じも変わります。

気ままに編んだり、並べ替えたり。

小さな時間が積み重なり生まれる、ふれあいの歌。



編みだしたのは、 新しいデザイン

高齢者在宅サービスセンター 西荻ふれあいの家

「西荻ふれあいの家」では、伊勢克也が人型の編み物作品を、SKANKが誰でも「歌づくり」を楽しめるプログラムをつくりました。2人は施設に何度も足を運び利用者や職員の意見を取り入れて、新たな「遊び」をプレゼントしました。



Arts Managers

TURN LANDプログラム事務局
一般社団法人

谷中のおかって Yanaka no okatte

多様な人々がアートプロジェクトを運営する際の
伴走サポートや、より多くの人々が個々のアーティストの
世界観に出会い協働できるような状況をつくるチーム。

マカロニ ボディ 「Macaroni/Body」

「マカロニ」は、考古学者アンリ・ブレイユが
洞窟壁画で発見した謎の屈曲線に因んで名付けたもの。
編み進めた場所を忘れても問題のない自由な手法で、
伊勢と利用者たちが交互に編み上げて完成する。

「ふれあいの歌カード」

利用者や職員の言葉から生まれた単語カードを使い、
誰もが「歌づくり」を楽しめるプログラムを開発。
文字数ごとにメロディが決められており、
カードを並べ替えて歌詞をつくと、
同時にメロディが出来上がる。



Artist

伊勢 克也 Katsuya Ise

東京藝術大学大学院修了。自然や人工物の形態を
テーマに全プロジェクトを「Macaroni」の名で
展開。TURNへの参加を機に高齢者と編み物に
邂逅し、フリースタイルニットャーとしても活動。
女子美術大学短期大学部教授。

photo: Ayaka Umeda



Artist

SKANK スカンク

パフォーミングアーツカンパニー“Nibrol”の音楽家。
映画や演劇、ダンスの舞台音楽を手がけ、国内外で
多様なメディアと協働。その場を尊重し、音楽が
生まれる過程に向き合い、作り方から思考する。
空間や身体、自他のあいだに働きかけ、
見えにくいものを感じさせる作品を制作。

photo: 深澤孝史

西荻ふれあいの家

Macaroni

Bodyがみるまで

7月 8月 すきま時間を アトリエに

夕刻、送迎を待つ時間にアーティストの伊勢が来て一緒に編み物をする。作品を囲んでおしゃべりするだけの参加もあり。昨年度は見守る側だった職員も、今年は積極的に制作に参加。

伊勢は、利用者と相談しながら一緒に編み進めていく。そして、いくつかの作品を持ち帰り、パーツを加工したり整えたりして、再度施設に持ってくる。

9月 10月 次々と作品が完成

少しずつ編み物作品が仕上がってきた。編みあがった作品を見て、「色がいい」とか「何だこれは」など、感想を言い合う時間も楽しんだ。

11月 周年記念 イベントで発表

施設を運営する法人の25周年記念イベントでお披露目をした。

女子美術大学の 下見

伊勢の案内で、編み物作品の展示会場となる女子美術大学の下見を行った。12月の展示期間に合わせて、利用者が大学を訪れることとなったため、高齢者の移動を想定して、車椅子での移動経路や昼食の場所などを確認した。

12月 作品展示と鑑賞会

作品が展示された展示会を、利用者たちは3日間に分かれて訪れた。大学職員も「100歳のおばあちゃんたちをみんなで迎え入れよう」と協力してくれた。

KNITTING! KNITTING!

1分間の
活動紹介

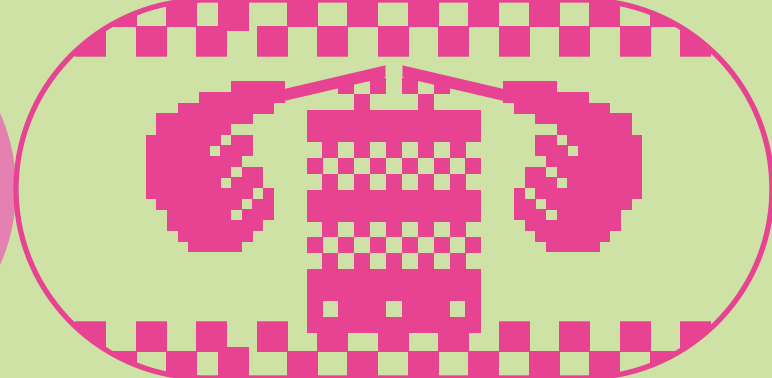
動画は
こちら



今の気分で、また編んで。

色んな模様や色で編むことができる。好きな色や模様を選んで編むことができる。好きな色や模様を選んで編むことができる。

「最近朝9時から10時過ぎにもやっているのよ」と職員さん。みんな空いた時間があれば自主的に毛糸を手にしていました。



Macaroni/Body

KNIT!



あはは～



編み物初挑戦の利用者も、「手がここにあつて、目がここにあるのよ。不思議よねえ。でも良い色合いたわ」と完成した作品を見てしみじみ。

伊勢の作品をみんなで鑑賞。身近な人にはない考え方をする伊勢との会話は、刺激的。



ええやん～

アーティストにとって

職員にとって

VALUES

その時の気分が最大限に尊重される創作の喜びを感じられた

最初は戸惑いながら始めた編み物も、続けるうちに好きな色を選び、途中で変え、形のズレさえ楽しめる時間に。どこまで編んだか分からなくなっても気楽に続けられ、日常に根づいていきました。

施設での実践が、表現の土台になった

施設での交流を通じて編み物という新たな手法に出会い没入し、表現を新たな角度から深めました。利用者と共に作品を生み出す関係性が創作を後押しし、活動の輪を施設外へ広げる土台になりました。

利用者や他の職員と「一緒に楽しむ時間」が増えた

変な編み物を囲む何でもない時間が積み重なるほど、職員にとっても大切な時間になりました。介助とは違うアーティストの柔軟な気配りや接し方は新鮮で、ゆるやかな関わりが心の豊かさにつながりました。

PLAY BACK

言葉のカードを並べて歌づくり!

「ふれあいの歌カード」ができるまで♪

曜日によって
プログラムや利用者が異なるため、
何度も西荻ふれあいの家を訪れた SKANK。
健康麻雀や書道など、利用者の普段の活動の
様子からアイデアを練り始めました。

6月

企画会議

施設のテーマソングをつくりたいという職員の要望に応え、SKANKは言葉を並べ替えるだけで歌が作れるカードのアイデアを提案。健康麻雀に参加し、楽しむ利用者の姿から着想を得た。

12月

周年記念イベントでお披露目

施設を運営する法人の25周年記念イベントで、つくった曲とカードの発表をした。

7月

言葉集めと試作

SKANKから施設の日常にある言葉を集めたいと提案され、職員は投函箱を作成。集まった言葉をみんなで吟味し選出。文字数ごとに色分けし、基本となる旋律を決定。

9月

職員とトライアル

職員がカードを用いた歌づくりに挑戦。次々に歌が生まれ、10番まで出来上がった。職員が楽器で演奏しながら旋律や構成を整え曲が完成!

11月

利用者とのトライアル

利用者の前で、職員が楽器を演奏しながら、カードでつくった歌を披露した。利用者と職員が一緒に歌った後、カードを用いて歌づくりに挑戦した。

1分間の活動紹介動画



こせば遊びを
しているうちに
歌が生まれる

ふれあいの 歌カード

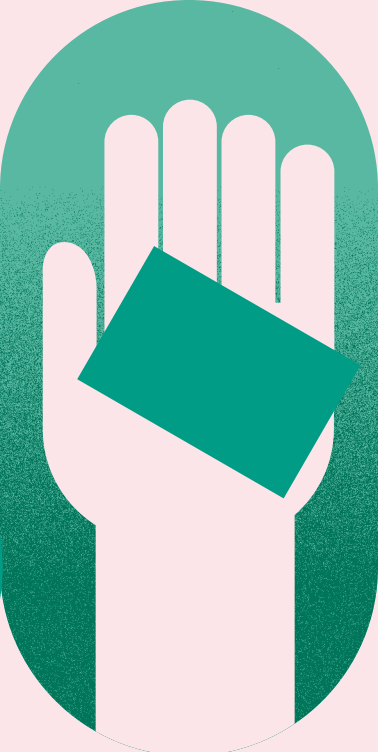


FREAI
UTA CARD

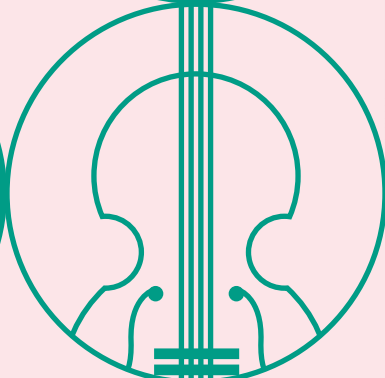


アーティストが施設に通い
利用者の活動を観察したことから
言葉を並べ替える着想を得ました。

SING



投函箱に日々の暮らしが
結晶化された言葉が集まり、
カード化で次々と歌が誕生。



職員と対話し、
利用者が無理なく施設で
継続できる形へ。
プログラムを具体化。

SONG



初めての歌でも
歌詞を見て即合唱。
「もう1回歌いたい!」との声も!

VALUES

**利用者
にとって**

新たな曲と出会い、
自分たちの歌が居場所をつくる

初めて聴く曲でも、よく知る風景が歌になっていてすぐに愛着を
持って歌えました。俳句や書道で培った表現力を活かし、言葉遊びの
感覚で無理なく歌ができたことが、驚きとともに自信になりました。

**アーティスト
にとって**

共創プロセスから学ぶ
音楽とは

介護現場との対話を通じた創作で、音楽が人の生にとってどんな意味を
持つのかを考える機会となりました。日常の中で歌が生まれ育っていく
プロセスに立ち会えたことで、自身の表現活動が刺激されました。

**職員
にとって**

日常に根ざした共創が、
連携の可能性を広げる

言葉遊びの延長で曲づくりが日常に浸透し、利用者との対話や
能力開発が深まりました。また、音楽を介して職員間の交流が活発になり、
施設外との連携へとつながる組織の新たな可能性が広がりました。

MEMBERS' COMMENTS



梅谷 則子
(西荻ふれあいの家 施設長)

「外からの風に感謝！」

毎日必死な中、アーティストや事務局の方の言葉は日々を振り返る大切なきっかけです。運営には職員の手も大事ですが、外からの風も大切。感謝ばかりです。反省会でもつくった歌を歌いましたが、今後は誕生会やボランティアの方との連携など、色々発展させていきたいです。



宮 浩子
(ももの会 理事)

「共につくるって素敵」

曲づくりに挑戦した日は、職員同士で何かをつくりあげる喜びを共有でき、その晩は凄くいい気持ちでした。誰かをイメージしてつくと言葉に気持ちが詰まりますね。自分の歌だと照れますが、他の人のことだと褒め合って完成していく。利用者さんとこんな経験ができて嬉しいです。



伊勢 克也
(アーティスト)

「共鳴する幸せ」

皆さんとつくった作品はこどものように愛おしく、作品を通して一人一人を思い出せます。展示会場に皆さんが来た時、自作ではない作品にも食い入り、予想以上に深い感覚まで受け取ってくれたことに驚きました。人生経験豊かな方々との芸術鑑賞は、心から幸せな時間でした。



TURN LAND
プログラム事務局

「職員とアーティストのスキルに感謝」

アート鑑賞や作曲といったハードルの高い行為を、交流を通じて利用者の特性を捉え、暮らしの中にすんなり落とし込むアーティストたちの技には驚きました。それを受け止める職員によって、豊かな時間がいくつになっても続く風景を目の当たりにし、とても励まされました。



SKANK
(アーティスト)

「言葉の重みに感動」

食事を大事にする皆さんの活動を尊敬しています。集まった言葉の中に「食べて」「おいしい」という言葉が多かったことが心身に沁みました。ふれあいの家に関われたお陰で沢山のことを学び、創作の視野も広がりました。嬉しい！微力ながら施設のことを伝えていきたいです。



TURN LAND

ってなに？

福祉施設などを拠点に
アートプロジェクトを行う
文化事業です。

誰がやってるの？

東京都、アーツカウンシル東京、一般社団法人谷中のおかってが
共催する事業です。東京都内にある福祉施設や福祉事業所を拠点に、
その施設に出入りする人々（職員や利用者、その家族や地域協力者など）と
プロジェクトチームをつくり、力を合わせてアートプロジェクトを
企画・運営します。

どんなアーティスト？

音楽やダンス、演劇、映像、手工芸など
表現のジャンルはさまざま、その場に関わる人々との
コミュニケーションを楽しみ、交流を通じた
新たな手法開発に前向きな姿勢がある。

なぜアート？

共創型のアートプロジェクトでは、
「作品」をつくるだけではなく、
そこにいる人々と「アートなひととき」を
つくることができます。
これは文化のアウトリーチでもあり、
医学的ケアを超えて、誰もが「人」として
社会参加できる文化的な時間をつくる
挑戦です。

なぜ福祉施設でやるの？

障害のある方々が落ち着いて
時間を過ごせる環境
(設備や習慣、人との関係)がある。

個々の障害特性と向き合うことで、
障害をこえて一緒に楽しめる
プログラムが開発できる。

さまざまな理由で文化施設などに
行くことができない
障害のある方たちにアートを届ける。

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団
アーツカウンシル東京、一般社団法人 谷中のおかって
発行：2026年3月25日
アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）
※営利・非営利を問わず、当資料のコンテンツを許可なく
複製、転用、販売など二次利用することを禁じます。

